

新約聖書に「テモテ」という人物のことが記されています。彼はイエス・キリストの十二弟子のひとりではありませんが、キリスト教会が誕生したばかりの紀元 50 年頃、イエス・キリストの福音を伝える伝道者、牧師として働いた人物です。きっかけは二十歳の頃、当時、地中海沿岸を幅広く伝道していたパウロとの出会いでした。テモテの純真で偽りのない信仰がパウロの目にとまり、弟子としてパウロとともに福音宣教に励みました。

パウロからテモテ宛の二通の手紙が、新約聖書におさめられています。その手紙の中でパウロはテモテのことを「信仰によるまことのわが子」、「愛する子」などと呼んでいることから、テモテに実の子のように愛情を注いでいることが分かります。

さらにその手紙には、テモテの家庭における信仰教育についても明らかにされています。テモテの偽りのない信仰は、祖母と母の影響が大きかったと賞賛しています。祖母と母の祈りが、テモテを教会の指導者にまで育て上げました。

その後、二千年以上にわたってそれぞれの国の家庭に、キリストの福音が浸透していきました。そしてこの日本の教会でも、今や三代目、四代目に限らず、さらに多くの世代に継承されクリスチャン家庭が起こされ、信仰が継承されています。

昨今、ある新興宗教のいわゆる「宗教二世」と言われる人々が話題になりました。親がその団体に加入し、多額の献金をしたことによって、家庭が崩壊したことが伝えられました。引き続きこの団体に対する返金訴訟や宗教法人格の剥奪などがニュースになっています。

そんな中でも、キリストの福音への「偽りのない信仰」は、それぞれの家庭でしっかり継承されています。家庭が崩壊し、人や社会から傷つけられた人たちが多い中でも、キリストの福音を信じる若者が確実に育っていることを喜んでいきます。